

岩手県医療局長 熊谷泰樹 様

2019年9月20日

日本共産党岩手県議団

齊藤 信

高田 一郎

千田美津子

県立中部病院の産科医確保と周産期医療体制の確保を求める申し入れ

東北大学が県立中部病院の産科医派遣を来春から引き上げるという報道に、県民の間に衝撃と不安が広がっています。県立中部病院は、北上済生会病院とともに地域周産期母子医療センターとして、中部地域の産科医療の要の役割を果たしてきました。昨年度の分娩件数は、県立磐井病院（756件）に次ぐ550件に及んでいます。

県立中部病院の産科医は昨年6人で今年度5人体制となりました。東北大学からの3人の派遣医師が引き上げられれば、中程度のリスクがある出産に対応する地域周産期母子医療センターの機能と役割が果たせなくなる極めて重大な事態です。県医療局はもとより、県保健福祉部等の連携を強化するとともに、岩手医大等への医師派遣の支援強化を求めるなど、あらゆる手立てを取り、地域周産期母子医療センターの機能を維持するよう下記の通り申し入れます。

記

- 1、東北大学に対し、県立中部病院の産科医派遣引き上げの撤回、見直しを強く求めること。
他の県立病院への産科医派遣の継続・拡充を求めること。
- 2、岩手医科大学に対し、産科医の派遣を強く求めること。他大学への要請を強化すること。
- 3、産科医の即戦力医師の確保に特に力を入れて取り組むこと。
- 4、産科医と一体で取り組む助産師、看護師の配置を強化すること。

以上